

J A 自己改革推進レポートについて

令和 7 年 3 月 2 4 日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取西部の取り組み

① ブロッコリー選別自動収穫機の実演会 負担軽減に期待

J A 鳥取西部ブロッコリー部会は 1 月 16 日、大山町のほ場でブロッコリー選別自動収穫機の実演会を開催した。生産者や行政、J A 関係者など約 70 人が参加した。

収穫機は、工場の自動化システムなどを手掛ける京都市のメーカー、P S E（プロダクトソリューションエンジニアリング）が開発した。オペレーターの端末操作で収穫機が自走。カメラで花蕾の大きさを選別し、設定した大きさのブロッコリーを自動で収穫する。生産者は「収穫作業の負担が軽減できれば、面積拡大ができる。導入は収穫の精度などを見極めて検討したい」と話した。

同部会の山本宜司部会長は「スマート農業の活用で生産者や関係機関が産地の将来像を考えるよい機会になった。今後の行政の後押しやメーカー開発の加速などに期待している」と話した。同社の廣畠健一社長は「高齢化や人手不足など農業界の課題解消につながる農機開発に新しい発想で取り組みたい。収穫機は産地の意見や要望を聞き、2 年後の提供をめざす」と話した。



② 33 年ぶり甲子園出場の米子松蔭高校を農畜産物で応援

J A 鳥取西部は 2 月 1 7 日、米子松蔭高校で、同校野球部に地元の農畜産物を贈呈した。同校野球部は、3 月 1 8 日から行われている「第 9 7 回選抜高校野球大会」で 33 年ぶりの甲子園出場を果たした。

贈呈したのは、「星空舞」100キロ、鳥取和牛10キロ、白ネギ30キロ、大山ブロッコリー30キロ、砂丘ニンジン30キロ、白菜90キロ。大きくて立派な肉や野菜を前に、部員は目を輝かせた。贈呈した食材は毎週土曜日にある保護者による炊き出しに使わ



れる。

同校野球部の惣郷峻吏主将は「戦っているのは自分たちだけではないと感じた。さらに体を大きくして試合に臨みたい」と意気込んだ。同J Aの中西広則組合長は「まだまだ寒い日が続くが、たくさん食べて強靱な体を作ってほしい」と激励した。

以上